

第24回初級「虫の同定講座」ご案内

＜趣旨＞製品の安全性を確保するためには高度で厳密な対応が必要であります。HACCPの制度化に向けて、製造工場ではどのように取り組んでいくかを真剣に考えなければなりません。品質管理ご担当及びPCO業務ご担当の方におかれましては日頃、異物、特に『虫』の防除対策に苦慮されておられることと推察いたします。虫を捕虫しても種・生態を判別できなければ安全対策上の防除に役立ちません。そこで、本会では、異物検体（検出）の『第24回初級「虫の同定」講座』を開講いたします。皆様方の「安全対策」にお役立て頂けるものと確信いたしております。新入社員の研修等に奮ってご参加下さい。

＜日時＞ 2019年8月22日（木） 10:00～15:30 ・ 8月23日（金） 10:00～15:30

＜主催＞ 環境管理技術研究会(550-0005 大阪市西区西本町1-12-19 Tel106-6531-2845 Fax06-6535-4684)

＜受講費＞ 会 員：31,000円（テキスト代、消費税含む）（環境管理技術誌定期購読会員）

非会員：34,000円（テキスト代、消費税含む）

＜募集定員＞ 20名（定員になり次第締め切ります）

*修了書をお渡しますので、参加者氏名の欄には、必ず受講される本人の名前を楷書でお書きください。

＜場 所＞大阪府立大学生命環境科学研究科 B11-2 緑地実験室（大阪府堺市中区学園町1-1）

** 『ゴキブリ・ハエ・ガ・貯穀害虫』の同定 **

1日目・2019年8月22日（木）10:00～15:30

＜内容＞

① [ゴキブリ]の同定 (10:00～12:00)

ゴキブリは、病原体の運び屋、アレルギーの原因、食品や貴重品の食害と汚染、精密機器や薬品への危険混入、商品中のカケラの存在でも大きな信用の失墜など困った存在である。本州では主にチャバネゴキブリ、クロゴキブリ、ヤマトゴキブリ、キョウトゴキブリ、西南暖地や特殊な環境ではワモンゴキブリ、コワモンゴキブリ、トビイロゴキブリ、イエゴキブリ、ハイイロゴキブリ、オガサワラゴキブリが屋内で見られる。

環境生物研究会 辻 英明

② [ハエ]の同定 (13:00～15:30)

2枚の翅を持つハエ類はカ、アブ、ハエを含めて極めて種類が多く「科」の区別も難しい昆虫である。不快害虫、衛生害虫として知られる種も多い。ハエの仲間が製品への異物混入として知られる事もある。カ、アブ、ハエの区別点を解説し、特に屋内で発生したり、侵入してくることの多いものについて顕微鏡を使いそれぞれの特徴を観察する。

元・環境科学科同定分析室長 山本 優

2日目・2019年8月23日（金）10:00～15:30

③ [ガ]の同定 (10:00～13:30)

屋内に侵入するガ（蛾）類について、種を同定する際に用いる形質（斑紋、下唇鬚（しゅ）、交尾器などの形態）について概説する。特に、衣類の害虫であるイガ類（ヒロズコガ科）、穀類をはじめ多くの食品の害虫を含むメイガ類（メイガ科）については、各成虫の形態の特徴について詳しく解説する。また、屋内で最も被害報告例の多いノシメマダラメイガについては、幼虫の刺毛配列などを顕微鏡で観察し、その特徴を説明する。（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所農業大学校 那須 義次

④ [貯穀害虫]の同定 (13:45～15:30)

昆虫分類学は研究や防除には不可欠です。しかし、分類学者でないかぎり、図鑑に示されている昆虫の形態的特徴の記述は法律書を読んでいる様に思えてなりません。幸いにも、貯穀害虫は他の昆虫類に比べれば種類数も少なく、それぞれの形態的特徴がはっきりしています。そのため同定にそれほど苦勞することはないでしょう。分類学を専門にするわけではないので、この講習では実用的な貯穀害虫の同定方法を紹介します。講習のポイントは数種の重要な貯穀害虫を覚えることにあります。

西部化成(株) 技術顧問 篠田 一孝

申込み・問い合わせは、電子メールまたはTELにて r.takagi@f2.dion.ne.jp/ 06-6531-2845